病院図書室　15(1):31-33, 1995

阪神大震災特集　地震と病院図書室

自然の力と人の力

－阪神大震災後の図書室の復旧－

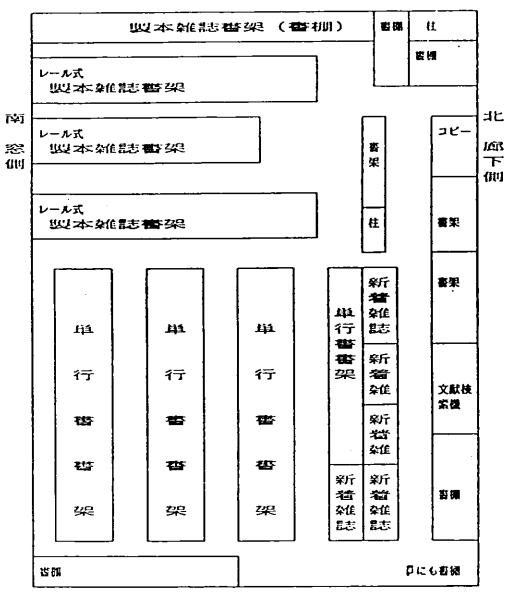
寺　澤　裕　子

1月20日、地震後初めて出勤する。病院の外観を見て、傾いていないとほっとする。しかし、いつもとは異なり、その日は玄関を入るとぴりぴりした緊張感が病院全体に流れており、図書室は果たしてどうなっているのだろうとまずそれが気になった。

被害の状況

実際、図書室の状況は想像以上で、手がつけられない状態であった。南北に平行に単行書書架が約20基、新着雑誌書架4基、製本雑誌書架19基、その他の書棚、文献検索機、コピー機などが設置されているが、すぐに使えるものは一つもなかった。倒れていなかったものはレール式の可動棚にしてあった製本雑誌書架のみで、それも北側の1基は3列とも脱輪していた。それ以外はすべて文献検索機の置いてある北側に覆いかぶさるように倒れ、そのために唯一立っている製本雑誌書架へもたどりつけない状況であった。

図書室レイアウト



▲▶書架が折り重なって倒れた室内

院内も断水中で、救急車のサイレンが終日途切れることがなく、また図書室のある建物にもひび割れや亀裂などの被害があった。病棟内部でもかなりの被害があり、病院の事務方では破損した箇所の復旧作業などに追われる状態であった。

臨時図書委員会の開催

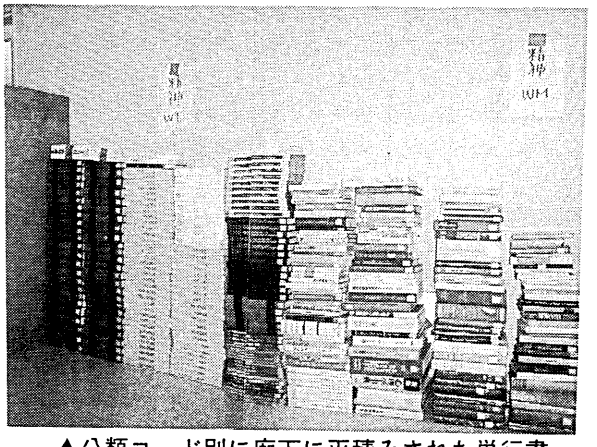
てらさわ　ゆうこ：関西労災病院図書室

1月26日、臨時図書委員会を開催し、図書室の復旧作業について話し合いが行われた。その結果、倒れた書架は歪みがあって使えないため新しい書架を入れること、蔵書は新しい書架が入るまで廊下に並べておくことが決まった。しかし、廊下に積み上げる際高く積み上げると危険なため、業者からは窓際に1列で腰の高さに積み上げるよう注意を受けた。そこで、単行書が山積みにならないよう、必要な図書を各科に緊急持ち出しするという措置をとることにし案内を出すことになった。また、当面図書室の業務は新着雑誌の整理と文献検索機の利用、文献相互貸借のみとし、とりあえず必要な文献は何とかカバーすることになった。単行書も平積みながらも使えるように工夫することで新しい書架が入るまでなんとかやっていこうということになった。

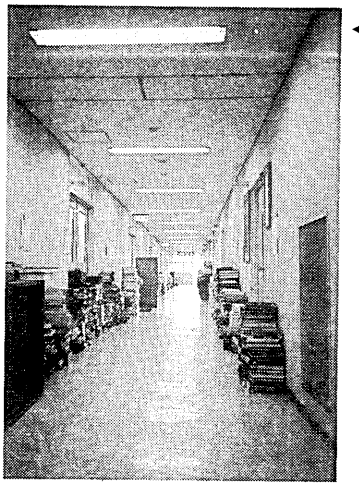
復旧作業

1月31日、図書委員会で決定した通り各科より数名づつ、合計約40名の人たちに応援してもらって復旧作業に取りかかった。書架を起こし、埋もれている単行書を引っ張り出して分類コードごとに廊下に並べていく。使えなくなった書架は1箇所にまとめて倒れないようにした。新着雑誌の書架も半分以上壊れていたが、使えそうなものを図書室内に残して飛び散った雑誌を集めて入れていく。

最後にいちばん奥に埋もれていた文献検索機にたどり着き電源を入れる。動くかどうか心配していただけに、いつも通り動きだしたのを見てその場にいた人たちから思わず「えらい！」と拍手が起こった。



▲分類コード別に廊下に平積みされた単行書



◀廊下にズラリと並べられた図書

地震対策

その後、新しい書架を入れることになったのだが、今回被害が少なかったレール式の可動棚を書架に使いたいと考えた。しかし、図書室の容量や重量制限、予算などの面で無理だと判断したため、きちんと固定できるタイプの書棚を入れることになった。

レイアウトにあたっては、スペース上の制限もあるが、再度倒れてきても文献検索機やコピー機などに倒れかからないよう空間を配分した。また、今回の地震で割れたガラスの破片が単行書にはさまって大変危険であったため、今まで新着単行書書架として使っていた引き違いガラス書棚は使用しないことにした。

製本雑誌書架の脱輪がなおったのが2月の末頃であったが、その折でもまだ崩れ落ちた製本雑誌を図書室内に積み上げるのが精一杯であった。製本書棚がなんとか使えるようになったのはつい最近のことである。単行書はまだ廊下に平積みの状態で、今も利用者には不便をかけている。

自然の力と人の力

私自身は一時期自宅から通勤できず気落ちしていた。そんな折、毎日の忙しい業務の合間を縫って院内の方々が図書室の復旧作業に活躍してくださるのをみて改めてマンパワーの素晴らしさを実感した。その中には多くの被災者もおり、それにもかかわらずきびきびと働く姿に本当に感動し、励まされた。

周辺の建物の取り壊しが進み、街の中は埃っぽい。しかし、そんな中でも桜は咲き、一雨ごとに新緑が美しく芽ぶいてくるのをみていると人間の及ばない自然の力の大きさに圧倒され、勇気が湧いてくる。

図書室は直接人命に関わる部署ではない。しかし、図書室にある書籍が間接的には人の命を救うのだと思いは確かにある。「必要な人に必要な本」を提供できる図書室、当たり前ではあるが基本的なこのことを大切にして頑張っていきたいと思っている。

最後に、今回の地震で協議会の皆様には本当にお世話になりました。まだ交通事情の悪い中お見舞いに来てくださったり、「必要でしたらいつでも申し込んでください」と雑誌所蔵目録を送ってくださったり、図書室立ち上げのご助力をお申し出いただきました。その上、お見舞い金までいただき本当にありがとうございました。